

「小学 書写 五年」年間指導計画・評価計画(案) 「支援」は、「B」に至らない児童に対する支援・援助の方法例。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価基準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月	2	表紙裏 ①・1	場面に合わせた書き方のくふう	○さまざまな場面における書き方の工夫について知り、興味・関心を高めることができる。	○「いろいろな書き方のくふう」を読み、場面に応じた書き方について考える。 ○文字の大きさや筆記用具の工夫など、観点を出しながら話し合う。	アウ	B ：読みやすく書く方法について話し合っている。 A ：文字の大きさや適切な筆記用具の工夫など、具体的な要点をあげながら話し合っている。 支援 ：文字の大きさや配列、筆記用具の工夫などについて、実際の掲示物を参照しながら理解できるようにする。	B ：さまざまな場面における書き方の工夫について考えている。 A ：場面に応じた書き方の工夫について、よく考えている。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら、具体的な場面をあげて考えるようにする。	B ：さまざまな場面における書き方の工夫について知り、興味・関心を高めている。 A ：さまざまな場面における書き方の工夫について理解し、興味・関心を高めている。 常に相手意識をもって、読みやすさなどに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：これまでに書いたものの「読みやすさ」がどうだったか問いかけることで、ふだんの生活でも読みやすさについて意識するよう呼びかける。
		2・3	五年生で学習すること 目次	○1年間の学習内容や学習の進め方について確認し、書写学習に対する意欲をもつことができる。	○教科書を参照して、学習のめあてを知る。 ○1年間の学習内容を知る。	アウ	B ：1年間のめあてや学習内容について知っている。 A ：1年間のめあてや学習内容について理解している。 支援 ：前学年で学習した内容をふまえながら説明する。		B ：1年間の学習内容を知り、書写学習に対する意欲をもっている。 A ：1年間の学習内容を知り、進んで書写学習に取り組む意欲をもっている。 支援 ：教科書紙面を参照しながら、1年間の学習内容と、学習したことを書写以外の学習にも生かしていくことについて説明する。
		4～8	1 はじめの学習 ■学習の進め方 ■点画の種類 ■姿勢と持ち方、用具のあつかい方	○用具の並べ方や扱い方について確かめることができる。 ○よい姿勢や筆の持ち方について確かめることができる。 ○常により姿勢やよい持ち方を意識して書くことができる。	○姿勢図を見て、用具の置き方、正しい姿勢、用具の持ち方を確かめる。 ○教科書の紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解する。 ○ワークシートを活用して、「点画の種類」を書く。 ○自分の課題を見つけて練習する。 ○自分の課題とした「点画の種類」をまとめ書きする。 ○後片づけの仕方を確かめる。	アイウ	B ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を理解している。 用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方が身についている。 これまでに学習した「筆圧」や「点画の種類」について理解している。 A ：用具の扱い方や、よい姿勢、筆の持ち方で書くことを、よく理解している。 用具の扱い方や、姿勢、筆の持ち方が、よく身についている。 これまでに学習した「筆圧」や「点画の種類」について、よく理解している。	B ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良しあしを考えている。 筆の穂の柔らかさや筆圧について考えている。 A ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良しあしを判断できる。 筆の穂の柔らかさや筆圧について、よく考えている。	B ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を確かめようとしている。 ほかの書写場面でも、よい姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。 A ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を積極的に確かめようとしている。 常により姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
							支援 ：よい姿勢やよい筆の持ち方で書くことの大切さについて理解を促す。用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方のポイントを具体的に説明する。教科書紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解を促す。	支援 ：どこを正すと姿勢、筆の持ち方がよくなるかを、基準に照らして説明する。筆の状態を確認し、運筆がしやすい状態に整えるようにする。教科書紙面を参照しながら、筆圧を三段階でとらえて、力の入れ方と太さを確かめられるようにする。	支援 ：用具の配置図や姿勢図、持ち方の写真と比べて、自分でチェックできるようにする。書写の授業以外でも気をつけるように呼びかける。
5 月	2～3	9・10	2 文字の組み立て方（中と外）『草原』	○中と外の部分の組み立て方を理解することができる。 ○中と外の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○中と外の部分の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『草原』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○教材文字の中の部分の外形を写し取り、動かしてみること、字形の整え方を確認する。 ○『草原』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから中と外の組み立て方でできているほかの漢字を探して書く。	アイウ	B ：中と外の部分の組み立て方について理解している。 中と外の部分の組み立て方に気をつけて書いている。 A ：中と外の部分の組み立て方についてよく理解し、字形を把握している。 中と外の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：ほかの文字の例を見ることによって、中と外の部分の組み立て方を比べてみるができるようにする。	B ：中と外の部分の組み立て方について考えている。 A ：中と外の部分の組み立て方の良さを考えている。 支援 ：拡大文字などを使って、文字の組み立て方が確かめられるようにする。	B ：中と外の部分の組み立て方に気をつけて書こうとしている。 ほかの文字や硬筆でも、文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：中と外の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：中と外の部分の組み立て方に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、文字の組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。
	適時	11	【知りたい 文字の世界】 「活字」について知ろう	○活字と手書き文字の違いに気づき、文字に対する興味・関心を高めることができる。 ○日常生活の中で見られる活字と手書き文字について、話し合うことができる。	○活字の印刷物を持ち寄る。 ○手書き文字と活字の字形について、点画の形や接し方などを比較する。 ○手書き文字と活字は、それぞれどのような目的や場に適しているのか話し合う。 ○話し合った結果を発表する。	アウ	B ：手書き文字と活字の特徴がわかる。 A ：手書き文字と活字の特徴について、よく理解している。 支援 ：教科書紙面を使いながら説明をすることで理解を促す。	B ：手書き文字と活字の違いについて話し合い、考えている。 A ：手書き文字と活字の違いについて話し合い、よく考えている。 支援 ：教科書の例、または用意しておいた拡大文字例などを使い、手書き文字と活字の違いに気づくようにする。	B ：手書き文字と活字の違いに気づき、文字に関する関心を高めている。 手書き文字と活字の特徴について、積極的に調べようという意識をもっている。 A ：手書き文字と活字の違いに気づき、積極的に調べようとしている。 手書き文字と活字の特徴について意識し、使い分けようという意識をもっている。 支援 ：身のまわりにある手書き文字と活字の例を提示して、目的に応じた使い方に気づくようはたらきかける。
6 月			3 文字の組み立て方（中と外）と、穂先の動き『道』	○「によう」と中の部分の組み立て方を理解することができる。 ○「によう」の筆使い（穂先の動きと筆圧）に気をつけて、字形を整えて書くことができる。	○『道』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○「によう」と中の部分の組み立て方を理解し、練習する。 ○「によう」の筆使いを理解する。	アイウ	B ：「によう」と中の部分の組み立て方について理解している。 「によう」の中の部分の組み立て方に気をつけて書いている。 「によう」の筆使いに気をつけて書いている。	B ：「によう」と中の部分の組み立て方について考えている。	B ：「によう」と中の部分の組み立て方に気をつけて書こうとしている。 ほかの文字や硬筆でも、文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	3	12・13		○中と外の部分の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『道』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから中と外の組み立て方でできているほかの文字を探して書く。		A ：「によう」と中の部分の組み立て方についてよく理解し、字形を把握している。 「によう」の中の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 「によう」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。	A ：「によう」と中の部分の組み立て方の良しあしを考えている。	A ：「によう」と中の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。
		14	〈硬筆の学習〉 文字の組み立て方（中と外）	○中と外の部分の組み立て方を理解することができる。 ○中と外の部分の組み立て方に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○中と外との組み立て方でできた教科書の教材文字を書く。 ○教科書の組み立て方の図を見ながら基準を理解する。 ○筆順と字形の関わりについても確認する。 ○中と外の組み立て方に気をつけて練習用紙に練習する。 ○目標と基準を確認しながらまとめ書きをする。	アウ	B ：中と外の部分の組み立て方について理解している。 中と外の部分の組み立て方に気をつけて書いている。 A ：中と外の部分の組み立て方についてよく理解し、字形を把握している。 中と外の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字や分解文字などを使って、組み立て方が視覚的に理解できるようにする。 構成要素である部首について意識できるようにする。	B ：中と外の部分の組み立て方について考えている。 A ：中と外の部分の組み立て方の良しあしを考えている。 支援 ：教科書の図版を参照し、組み立て方の順序について確かめられるようにする。	B ：中と外の部分の組み立て方に気をつけて、硬筆で書こうとしている。 ほかの文字でも、文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：中と外の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて硬筆で書こうとする。 常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意欲をもっている。 支援 ：中と外の部分から構成されるさまざまな文字について調べることで、関心を高めるようにする。 学習した以外の文字でも、組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。
	1	15	【レッツ・トライ】 文化 —『竹取物語』を書く	○文字の大きさと行の中心に気をつけて書くことができる。	○教科書教材の『竹取物語』を試書する。 ○縦書きで配列を整えて書くための基準を理解する。 ○行の中心に線を引いたり、文字の外形を囲んだりして、基準をつかみやすくする。 ○練習用紙を選択して練習する。 ○試書とまとめ書きを比べて評価する。	アウ	B ：文字の大きさ、文字の中心を行の中心に揃えて書く方法について理解している。 文字の大きさと配列に気をつけて書いている。 A ：文字の大きさ、文字の中心を行の中心に揃えて書く方法について、よく理解している。 文字の大きさに気をつけて、配列を整えて書いている。 支援 ：補助線を引くことで、文字の位置が視覚的に確かめられるようにする。 中心線などの補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。	B ：文字の大きさや、文字の中心を行の中心に揃えて書く方法について考えている。 A ：文字の大きさや、文字の中心を行の中心に揃えて書く方法について、よく考えている。 支援 ：試書と教材文字とを比較して、自分の課題がわかるようにする。	B ：文字の大きさと配列に気をつけて書く意欲をもっている。 書写以外の学習でも、文字の大きさと配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：文字の大きさと配列に気をつけて書く意欲をもち、積極的に取り組んでいる。 常に文字の大きさと配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：教科書を見ることで、今まで学習した配列のポイントについて確かめるようにする。 書写の授業以外でも、文字の大きさと配列に気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
7月	2～3	16・17	4 筆順と字形『成長』	○筆順と字形（点画の接し方など）との関係を理解することができる。 ○「横画」と「左はらい」の筆順と点画の接し方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○筆順と点画の接し方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『成長』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○筆順と字形の関わりを確認し、練習する。 ○『成長』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから筆順と点画の接し方に気をつけるほかの文字を探して書く。	アイウ	B ：筆順と字形との関係について理解している。 「横画」と「左はらい」の筆順と点画の接し方に気をつけて書いている。 A ：筆順と字形との関係についてよく理解し、字形の整え方を把握している。 「横画」と「左はらい」の筆順と点画の接し方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：ほかの文字の例を見ることによって、筆順と字形との関係を確かめられるようにする。 筆順と接し方について、具体的に説明できるようにする。	B ：筆順と字形との関係について考えている。 A ：筆順と字形との関係について、よく考えている。 支援 ：分解文字などを使って、筆順と字形との関係を確かめられるようにする。	B ：筆順と字形に気をつけて書こうとしている。 ほかの文字や硬筆でも、筆順と字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：筆順と字形に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に筆順と字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：点画どうしの接し方について説明することで、筆順と字形に対する関心を高める。 学習した以外の文字や硬筆でも、筆順と字形に気をつけて書くよう呼びかける。
		18	〈硬筆の学習〉 筆順と字形	○筆順の原則を理解することができる。 ○筆順に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○教科書の上段で例示されている漢字を書き、筆順について近くの席の人と確かめ合う。 ○正しい筆順と、筆順の原則を理解する。 ○筆順に気をつけて、教科書の教材文字を書く。 ○筆順を誤りやすい『慣』『快』『初』『複』『集』『確』を書く。 ○筆順と字形に気をつけてまとめ書きをする。	アウ	B ：筆順の原則について理解している。 筆順と字形に気をつけて書いている。 A ：筆順の原則についてよく理解し、字形の整え方を把握している。 正しい筆順で、字形を整えて書いている。 支援 ：いろいろな文字の例にあてはめて考えることによって、筆順と字形の関係を確かめられるようにする。 字形が整っていない文字について、筆順を確かめられるようにする。	B ：筆順の原則について考えている。 A ：筆順の原則についてよく考えている。 なぜ筆順どおりに書くことが大切なのか、考えている。 支援 ：教科書の図版などを使って、筆順の原則が確かめられるようにする。	B ：筆順と字形に気をつけて、硬筆で書こうとしている。 ほかの書写場面でも、筆順の原則に従って、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 A ：筆順と字形に気をつけて、字形を整えて硬筆で書こうとしている。 常に筆順の原則に従って、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 支援 ：文字の中のどの部分に筆順の原則が使われているか説明することで、筆順に対する関心を高める。 書写の授業以外でも、筆順と字形に気をつけて書くよう呼びかける。
9月	1	19～21	【レッツ・トライ】 メモ 一工場見学のメモ	○さまざまな場面に適した書き方について、話し合うことができる。 ○メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に生かす意欲をもつことができる。	○目的に合わせた書く速さについて話し合う。 ○速く書く場合の書き方として、メモの取り方について知る。 ○座った姿勢や立った姿勢で、ノートに速く書く。 ○わかったことや感想を書く。	アウ	B ：メモの取り方について理解している。 目的に応じた書き方について理解している。 メモの取り方を知り、立ったり座ったりしてメモを取っている。 A ：メモの取り方について、よく理解している。 目的に応じた書き方について、よく理解している。 メモの取り方を理解して、立ったり座ったりしてメモを取っている。	B ：さまざまな場面に適した書き方について考え、話し合っている。 A ：さまざまな場面に適した書き方についてよく考え、話し合っている。	B ：メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に生かしていこうとする意欲をもっている。 書写以外の学習場面でも、目的に応じた書き方で書こうとする意識をもっている。 A ：メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に進んで生かしていこうとする意欲をもっている。 常に目的に応じた書き方で書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9・10月							支援 ：教科書の紙面を参照しながら、書き方のポイントについて確認する。書きにくい場合は、筆圧や姿勢について確かめられるようにする。	支援 ：具体的な場面を例にあげて、目的に応じた書き方について投げかけるようにする。	支援 ：書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。書写の授業以外でも、目的に応じた書き方で書くよう呼びかける。
	2	22・23	5 文字の大きさ（漢字どうし）『白雲』	○漢字どうしの形や大きさの違いを理解することができる。 ○漢字どうしのつり合いに気をつけて書くことができる。 ○漢字どうしの大きさを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○硬筆と毛筆で『白雲』を試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○漢字どうしの大きさや形の違いについて理解し、練習する。 ○『白雲』をまとめ書きする。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○毛筆の効果を生かして硬筆で『白雲』を書く。	アイウ	B ：漢字どうしの形や大きさの違いについて理解している。 漢字どうしのつり合いに気をつけて書いている。 A ：漢字どうしの形や大きさの違いについてよく理解し、字形を把握している。 漢字どうしのつり合いに気をつけて、字形を整えてよく書いている。 支援 ：文字の外形を囲むことで、文字の大きさが視覚的に確かめられるようにする。 外形が書いてある練習用紙を使うことで、文字の大きさが確かめられるようにする。	B ：漢字どうしの形や大きさの違いについて考えている。 A ：漢字どうしの形や大きさの違いについて、よく考えている。 支援 ：試書と教材文字とを比較して、自分の課題がわかるようにする。	B ：漢字どうしのつり合いに気をつけて書こうとしている。 書写以外の学習場面でも、漢字どうしのつり合いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：漢字どうしのつり合いに気をつけて、字形を整えてよく書こうとしている。 常に漢字どうしのつり合いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：漢字どうしの大きさに着目するよう呼びかける。 書写の授業以外でも、漢字どうしのつり合いに気をつけて書くよう呼びかける。
	2～3	24・25	6 文字の大きさ（漢字と平仮名）『登る』	○漢字と仮名の形や大きさの違いを理解することができる。 ○漢字と仮名のつり合いに気をつけて書くことができる。 ○漢字と仮名の大きさを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『登る』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○漢字と仮名の形や大きさの違いについて確認し、練習する。 ○『登る』を硬筆や毛筆でをまとめ書きする。 ○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などを見ながら、漢字と仮名を組み合わせた言葉を作って書く。	アイウ	B ：漢字と仮名のつり合いについて理解している。 漢字と仮名のつり合いに気をつけて書いている。 A ：，漢字と仮名のつり合いについてよく理解し、字形を把握している。 漢字と仮名のつり合いに気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：文字の外形を囲むことで、文字の大きさが視覚的に確かめられるようにする。 外形が書いてある練習用紙を使うことで、文字の大きさが確かめられるようにする。	B ：文字の形や大きさの違いについて考えている。 A ：文字の形や大きさの違いについて、よく考えている。 支援 ：それぞれの教材文字は、大きさや形がどう変わるのか、同じ課題の友達と考えることができるようにする。	B ：漢字と仮名のつり合いに気をつけて書こうとしている。 書写以外の学習場面でも、漢字どうしのつり合いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：漢字と仮名のつり合いに気をつけて、字配りよく書こうとしている。 常に漢字どうしのつり合いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：自分の課題はどのようなところにあるか、前時を振り返り確かめられるようにする。
	適時	26	【知りたい 文字の世界】平仮名のもとになる漢字	○平仮名のもとになる漢字を知り、文字に対する興味・関心を高めることができる。	○教科書で例示された漢字を見て、どんな平仮名ができるか話し合う。 ○平仮名の字源を調べる。 ○平仮名の字源についてグループで紹介し合い、発表する。	アウ	B ：平仮名の字源について理解している。 A ：平仮名の字源について、よく理解している。 支援 ：漢字をくずした文字を実際に書いてみることで、字形の変化を感じられるようにする。		B ：ほかの平仮名についても、字源について関心をもち調べている。 A ：ほかの平仮名についても、字源について関心をもち、積極的に調べている。 支援 ：ほかの平仮名の字源や片仮名の字源を紹介することで、関心を高めるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
10・11月	3	27～29	7 穂先の動きと、線のつながり『あこがれ』	○穂先の動きと線のつながりについて理解することができる。 ○用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、行の中心をそろえて書くことができる。 ○線のつながりを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『あこがれ』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○平仮名の特徴や字源について確認する。 ○穂先の動きと、線と線のつながりに気をつけて練習する。 ○『あこがれ』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○毛筆の効果を生かして硬筆で『あこがれ』『ふれあい』を書く。	アイウ	B ：穂先の動きと、線と線のつながりについて理解している。 穂先の動きとつながりに気をつけて書いている。 A ：穂先の動きと、線と線のつながりについて、よく理解している。 穂先の動きと、線と線とのつながりに、よく気をつけて書いている。 支援 ：書いている様子を友だちと見合いながら、次につながる穂先の動きについて確かめられるようにする。	B ：穂先の動きと、線と線のつながりについて考えている。 A ：穂先の動きと、線と線のつながりについて、よく考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。	B ：穂先の動きと、線と線のつながりについて関心をもっている。 ほかの文字や硬筆でも、次の線へのつながりに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：穂先の動きと、線と線のつながりについて関心をもち、積極的に書こうとしている。 常に次の線へのつながりに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：次の線へつながる穂先の動きについて、教科書の図版を使いながら説明する。 学習した以外の文字でも、次の線へのつながりに気をつけて書くよう呼びかける。
	2	30～33	【レッツ・トライ】ポスター—委員会のポスター	○用紙全体に対する文字の大きさや余白のとり方に気をつけて、配列を整えて書くことができる。 ○読み手にわかりやすく効果的に伝えるための、筆記用具の工夫について理解することができる。 ○書写で学習した内容を、学校生活に生かしていく意欲をもち、丁寧に書くことができる。	○必要事項を入れて、簡単な掲示物を書いてみる。 ○教材例を見ながら基準を理解する。 ○用紙を選び、レイアウトを考える。 ○書く目的に応じた筆記用具を選択する。 ○自分のイメージを広げて練習する。 ○配置の補助線を引くなど工夫して、実際の掲示物をまとめ書きする。 ○掲示物を見せ合い、考えを深める。	アウ	B ：読みやすく書くための基準について理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて書いている。 A ：読みやすく書くための基準について、よく理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：配列は整っているか、筆記用具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B ：読みやすく書くための基準を確認し、自分のめあてを設定している。 A ：読みやすく書くための基準を確認し、自分のめあてを設定し、解決方法を選択している。 支援 ：読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。	B ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。 A ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも積極的に生かしていく意識をもっている。 支援 ：読みやすい掲示物の例などを具体的に例示する。 書写の授業以外でも、相手の読みやすさや効果を考えて書くよう呼びかける。
	2	34・35	8 用紙に対する文字の大きさと配列年賀状	○用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、行の中心をそろえて書くことができる。 ○学習したことを生かして、年賀状を書くことができる。	○教科書の「考えよう」の年賀状の例を見比べて話し合う。 ○基準を確認する。 ○実際に出す相手を想定して、年賀状の裏面を書く練習をする。 ○横書きの年賀状の書き方や、年賀状の書き方のルールを知る。 ○基準を確認し、まとめ書きをする。 ○自己評価・相互評価をする。 ○「賀正」以外の年賀状の賀詞について知る。	アイウ	B ：用紙に対する文字の大きさと配列について理解している。 用紙に対する文字の大きさと配列に気をつけて書いている。 A ：用紙に対する文字の大きさと配列について、よく理解している。 用紙に対する適切な文字の大きさで、文字の中心を行の中心に揃えて書いている。 支援 ：用紙には、鉛筆で薄く中心線を入れたり、文字の大きさの目安となる印をつけたりしてもよいことを助言する。	B ：用紙に対する文字の適切な大きさと配列について考えている。 A ：用紙に対する適切な文字の大きさと配列について、よく考えている。 支援 ：用紙に対する文字数を考えて文字の大きさを決めるよう助言する。	B ：ほかの文字や硬筆でも、用紙全体に対する文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：常に用紙全体に対する文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：実際のはがきの例を提示することで、文字の大きさや配列に気をつけて書くことへの意欲を高められるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
12・1月	4～5	44～48	書きぞめ 『初春』 『世界の国』	○床の上や立って書くときの姿勢、筆の持ち方に気をつけて、これまでの学習を生かして書くことを理解することができる。 ○文字の大きさや組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○文字の中心に気をつけて書くことができる。	○『初春』（または『世界の国』）を試書する。 ○書きぞめの姿勢を知る。 ○試書と教材文字を比べ、基準を理解する。 ○基本点画に気をつけて練習する。 ○試書とまとめ書きを比べ、自己評価する。	アイウ	B ：書きぞめの姿勢や持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心について理解している。 これまで学習した文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書いている。 A ：書きぞめの姿勢や持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心について、よく理解している。 これまで学習した文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：今まで学習した内容について、教科書を確認しながら理解できるようにする。 書きぞめ用紙を縦半分に折り、中心を意識できるようにする。 外形を考えることで、文字の大きさについて確かめられるようにする。	B ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方について考えている。 A ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方の良さあしを考えている。 支援 ：姿勢図や筆の持ち方の図版などを使って、確かめられるようにする。	B ：書きぞめに関心をもち、書こうとしている。 ほかの学習の書写場面でも、よい姿勢や持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：書きぞめに関心をもち、積極的に書こうとしている。 常に姿勢や持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて、配列よく書こうとする意識をもっている。 支援 ：書きぞめの由来を説明し、書きぞめについて関心が高まるようにする。 書写の授業以外の書写場面でも、姿勢や持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書くよう呼びかける。
	適時	36・37	【書いて 伝え合おう】 はがき 一年賀状、絵はがき を書こう	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○教科書の例を見て、はがきを書く際の筆記用具や紙面構成の工夫を話し合う。 ○今まで学習したことを振り返り、文字の大きさや配列について想起する。 ○はがきの下書きをする。 ○文字の大きさや位置、効果的な筆記用具の選択を考えて、はがきを書く。 ○自己評価、相互評価をする。	アイウ	B ：相手に伝わりやすい効果的な書き方について理解している。 文字の大きさや配列に注意したり、筆記用具を工夫したりしている。 A ：読みやすく書くための基準について、よく理解している。 文字の大きさや配列に注意したり、筆記用具を工夫したりして、読みやすく書き表している。 支援 ：配列は整っているか、筆記用具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B ：読みやすく書くための基準を意識して、はがきを見直している。 A ：読みやすく書くための基準を意識して、はがきを見直したり工夫したりしている。 支援 ：読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。	B ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。 ほかの学習場面でも、読みやすく書くために工夫していこうとする意識をもっている。 A ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも進んで生かしていく意欲をもっている。 常に読みやすく書くために工夫していこうとする意識をもっている。 支援 ：読みやすい掲示物の例などを具体的に例示する。 書写の授業以外でも、相手の読みやすさを考えて書くよう呼びかける。

指導 月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導 要領の 内容	評 価 規 準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2・ 3月	4～5	38～41	9 学習のまとめ 『考える子』	○これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで、意欲をもって書くことができる。 ○自分の選んだめあてに気をつけて書くことができる。 ○学習したことを生かして、硬筆で書いて確かめることができる。	○『考える子』を硬筆や毛筆で試書する。 ○これまで学習したことの中から自分のめあてを選ぶ。 ○漢字と平仮名の大きさや配列について理解する。 ○自分のめあてに向かって練習する。 ○『考える子』を硬筆や毛筆でまとめ書きし、試書と比べて達成度を話し合う。 ○自分のめあてが達成できなかった場合は、既習事項を振り返る。（毛筆） ○縦罫線の用紙に『雪わたリ』の一部を試書する。 ○中心に線を引いて自己批評する。 ○文字の大きさや配列に気をつけて、まとめ書きをする。（硬筆）	アイウ	B ：これまで学習した文字の大きさや字形の整え方について理解している。 これまで学習したことを生かして、漢字と平仮名の大きさに気をつけて書いている。 A ：これまで学習した文字の大きさや字形の整え方について、よく理解している。 これまで学習したことを生かして、漢字と平仮名の大きさに気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。 配列よく書くための要点について具体的に示すようにする。	B ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んでいる。 A ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選んでいる。 支援 ：『考える子』を試書することで、自分のめあてが見つけられるように支援する。	B ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで書こうとしている。 硬筆の学習でも、漢字と平仮名の大きさに気をつけて、配列よく書こうとする意識をもっている。 A ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選び、積極的に書こうとしている。 常に漢字と平仮名の大きさに気をつけて、配列よく書こうとする意識をもっている。 支援 ：1年間の学習内容や筆使いなどが確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、文字の大きさや配列に気をつけて書くよう呼びかける。
		42・43	【知っておこう】 手紙 一工場見学のお礼の手紙	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○教科書を見て、手紙の書き方と封筒の書き方について確かめる。	アウ	B ：手紙の書き方について理解している。 A ：手紙の書き方について、よく理解している。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら、手紙の書式について確かめられるようにする。 封筒に対して文字が大きすぎたり小さすぎたりしのように、教科書を見ながら確かめられるようにする。		

指導 月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導 要領の 内容	評 価 規 準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	適時	49～52	【漢字表】 五年生で学習する漢字 四年生で学習した漢字	○4年生で学習した字形の 整え方などを確かめること ができる。 ○5年生で学習した筆使い や筆順、組み立て方などを 確かめることができる。 ○漢字表を活用した、漢字 の仲間分けの活動を行っ たり、筆順をまちがえやすい 漢字について確かめたりす ることができる。	○筆順のきまりを確認する。 ○筆順に気をつける漢字を正 しい筆順で書く。 ○文字の組み立て方の観点か ら、漢字表の文字を分類し、 印を書きこむ。 ○友達と見せ合い、正しく書 けたか相互評価する。	アウ	B ：同じ組み立て方の構成をもつ漢字 を探すなど、漢字の仲間分けについて 理解している。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探 すなど、漢字の仲間分けをしている。 A ：同じ組み立て方の構成をもつ漢字 を探すなど、漢字の仲間分けについ て、よく理解している。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探 すなど、漢字を正しく仲間分けしてい る。 支援 ：今まで学習した文字の組み立て 方などの内容を振り返り、確かめられ るようにする。 辞典などを使って、漢字の部分につい て調べるようにする。	B ：これまで学習した字形の整え方、 筆順について考えている。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探 すなど、漢字の仲間分けについて考 えている。 A ：これまで学習した字形の整え方、 筆順について、よく考えている。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探 すなど、漢字の仲間分けについて判断 している。 支援 ：教科書紙面を使って、正しい筆 順や字形の整え方などが確かめられる ようにする。 どの文字のどの部分に着目して探す か、具体的に説明する。	B ：漢字表を使った、漢字の仲間分け の活動や、漢字の成り立ちについて、 関心を高めている。 ほかの学習場面でも、筆順や字形に気 をつけて書こうとする意識をもってい る。 A ：漢字表を使った、漢字の仲間分け の活動や、漢字の成り立ちについて関 心を高め、積極的に取り組もうとして いる。 常に筆順や字形に気をつけて書こうと する意識をもっている。 支援 ：漢字表の使い方について確かめ らるようにする。 書写の授業以外でも、気をつけるよう 意識づける。
		53	【平仮名表】 【すみ・すずり・紙 の作り方】	○平仮名の字形や筆順を確 かめることができる。	○「ひらがな表」「かたかな 表」を見て、平仮名と片仮名 の筆順や字形を確認する。 ○字形がうまくとれない文字 について、重点的に練習す る。	アイ	B ：平仮名、片仮名の筆順や字形につ いて理解している。 A ：平仮名、片仮名の筆順や字形につ いて、よく理解している。 支援 ：ふだん、字形を整えにくい文字 に関して、教科書を見ながら確認でき るようにする。		B ：平仮名、片仮名の筆順や字形を確 かめている。 常に平仮名、片仮名の筆順や字形を確 かめようとする意識をもっている。 A ：平仮名、片仮名の筆順や字形を、 積極的に確かめている。 常に平仮名、片仮名の筆順や字形を確 かめて、丁寧に書こうとする意識を もっている。 支援 ：まちがえやすい筆順について、 重点的に確かめられるように呼びかけ る。 書写の授業以外でも、常に気をつける よう意識づける。